

## 第12回悠久会神奈川支部ハイキングの報告

神奈川支部ハイキング担当 藤曲啓志（見習い修行中）

日時：平成26年 3月 8日（土）

コース：JR湯河原駅 -バス- 幕山公園（標高200m）～ 幕山（625m）～自鑑水～南郷山（610m）～ ゆとろ嵯峨沢の湯 -送迎車- 湯河原駅 -電車- 小田原駅解散

参加者：5名：池田邦彦（電33）、相馬友一（子院46）、平林茂（応化50）、吉井茂男（土51）、藤曲啓志（機53）

まだ朝の寒さが身にしみる3/8（土）、晴天の中、湯河原「梅の宴」と幕山・南郷山のハイキング、湯河原の湯、そしてうまい酒を大いに楽しみました。

8時45分湯河原駅に集合、すると「梅の宴」会場の幕山公園行きバスを待っている人々約60名の行列が、、、。ギューギュー詰めバスを覚悟したのですが、1台目のバス発車後、すぐ臨時バスがやってきて楽々座って公園に9時過ぎに到着しました。「今回も付いているぞ」と楽しい一日となることを予感しつつ200円を払って入園しました。平成8年に初公開された梅林は、今年で19年目を迎えました。四季を通じ雄大な自然景観と出会える「幕山」の山麓斜面に、約4千本の紅梅・白梅が“梅のじゅうたん”のごとく咲き乱れ、園内は梅の香りに包まれています。（湯河原市HPをちょっと編集して引用：最近コピーが批判されているので念のための注釈です）園内をくまなく回る約1時間、梅、梅、梅、どこまで行っても梅、「素晴らしい」の一言です。

10時に幕山山頂を目指して出発しました。途中には登攀の練習場となっている絶壁があり今日もカラフルなウエアを纏った登山家を取りついていました。1回休憩して頂上に11時到着、頂上には広場がありますがハイカーでいっぱいでした。ゴールの温泉に早く着くためには長居は無用と、小休止して11時15分に南郷山目指して出発しました。

途中、「自鑑水」に立ち寄ることにしました。山道は2月の2週続けての大雪で笹竹が覆いかぶさっていて、かき分けて進まなければならないことしばしば、また雪が残っていて滑ります。風が吹き抜けると木の枝に積もっている雪がパラパラと降ってきました。自鑑水は、自害水とも呼ばれる山の中の湧水池です。1180年平家討伐に立ち上った源頼朝が、石橋山の合戦に敗れ落ち延び、この湧水池に映った惨めな姿を見て自害しようとしたという鍛冶屋地区に伝わる逸話から名づけられています。（雄々しい姿を見て平家を破るのは私だと思い直したと最近作られた碑には書かれています）湧水池の周りで休んでいると2人づれの山ガールが通りかかり、さっそく記念撮影をお願いすると、気持ちよく引き受けてくれました。

自鑑水で頼朝が自害していたら、その後の日本はどのようになっていたのだろうか？などと考えながら、先ほどの山ガールに先導されて南郷山へ到着したのは12時15分でした。山頂には小さな広場があり、眼下には湯河原の街、真鶴半島、相模湾が一望できまし

た。山頂で昼食、お昼の一杯を楽しんで、13時ごろ本日のゴール「ゆとろ嵯峨沢の湯」を目指して下山を開始しました。

白銀林道までは、眼下に真鶴半島を見下ろしての下りです。ところどころ滑って危険です。湯河原カントリークラブまでの下りも、倒木あり、ぬかるみありのバリバリの山道でした。ゴルフ場を過ぎるとミカン畑の間を抜けていき、やがて街へとたどり着きました。

道に迷って(幹事反省)、ゴール「ゆとろ嵯峨沢の湯」に14時40分頃到着、5人以上の団体はマイクロバスで駅まで送ってくれる(ラッキー)ということで、17時に予約してさっそく温泉に入りました。「ゆとろ嵯峨沢の湯」は、日量43万リットルの日帰り温泉です。入浴で汗を流した後、施設内のお食事処で地元の魚介類をつまみに乾杯! 特に桜えびのかき揚げがおいしく印象に残りました。

その後17時にマイクロバスで湯河原駅まで送ってもらい、上り電車に乗車し、小田原駅で車中解散しました。

池田さん談:今回は、好天に恵まれ、皆さんと一緒に、たくさん咲いているきれいな梅の花をながめ、山に登りいろいろな景色を楽しみ、温泉に入浴して疲れをほぐし、料理を味わいながら酒を飲み、楽しい楽しいハイキングでした。(約13km歩きました)



梅、梅、梅、どこまで行っても梅!



園内をくまなく散策しました



登攀訓練で知られている絶壁だそうです



「自鑑水」由来の碑の前で(山ガール撮影)



自鑑水：1年中水が枯れないそうです



山道には雪が残っていました



ハイカーでにぎやかな南郷山にて  
お昼の乾杯！（別の山ガール撮影）



眼下には真鶴半島が蛇のように見えます  
その先には相模湾が広がっています



倒木をくぐって歩きます



入浴後のお疲れさん会  
笑顔で乾杯！！ほんとに好きなんです！